

子育てしやすいまちを目指して

市では、安心して健康に暮らせる福祉のまちづくりを目指し、次代を担う子どもたちが健やかに育つ環境づくりに取り組んでいます。今回の特集では、公共施設の整備、子育て家庭に対するさまざまな支援など、合併後の予算・決算から見る、子育て支援策を紹介します。



自動手指消毒器



AED

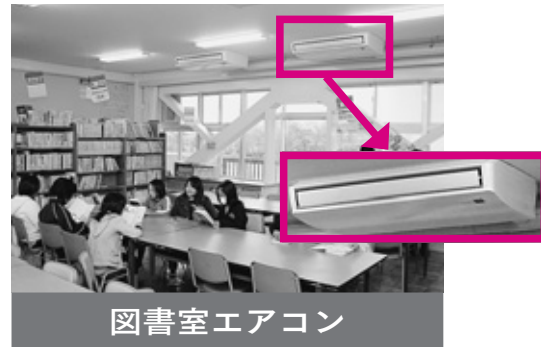


校庭用遊具

①安全性を高める
合併時、教育施設の耐震化率は約75%でしたが、平成22年4月1日(月)には、約89%となる見込みで、順調に耐震化が図られています。
また、AEDの設置、ドアや遊具などの小規模修繕、インフルエンザ対策として自動手指消毒器の設置などを行っています。



新JIS机・イス



図書室エアコン

②生活空間の環境整備
暑さ対策として、教室への扇風機設置や図書室へのエアコン設置、学習環境向上のため、A4の教科書に対応する机・イスの入れ替えなど、備品類を充実させています。



図書室の蔵書の充実



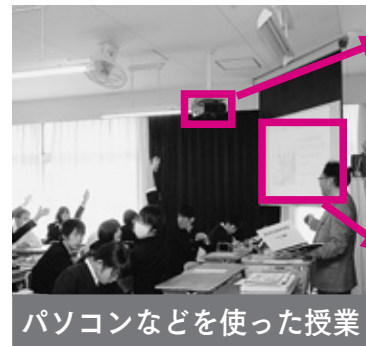
アシスタントティーチャー

↑授業の中で、子どもの横に行き、助言や補足をします。

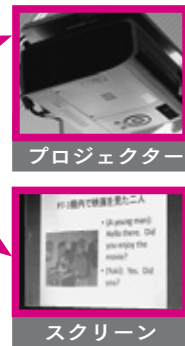


少人数指導

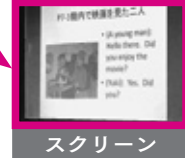
③総合的な不登校対策の推進
深谷市立教育研究所が平成22年1月4日(月)にオープンします(11ページ参照)。不登校児童・生徒のための教室や教育の「深谷モデル」創造のための拠点施設になります。



パソコンなどを使った授業



プロジェクター



スクリーン



子育て支援センター



ぼくも、早く通いたいな!

子どもたちのために取り組んできた事業

④情報教育の推進
子どもたちが、調べたりプレゼンテーションする力を身に付けられるように、小・中学校普通教室の情報化、デジタル対応テレビへの更新、図書室蔵書の充実など、実施しました。

⑤子育て家庭に対する支援の充実
育児の相談や、子育て家庭支援のため、子育て支援センターや育児サークルへの支援、また、子ども医療費の支給などの経済的支援をしています。

⑥保育サービスの充実
保護者のニーズに対応した

多様な保育サービスを提供するため、老朽化した保育園施設の建て替えや学童保育室の建設、その他、保育園の受け入れ年齢拡大や病後児保育の拡充など、行いました。

今回ご紹介したのは、市が子育てに関して行っている事業の一部です。

このほかにも、高校生を対象とした奨学金支給事業や大学などへの入学時の経済的支援として「大学等入学資金融資制度」などを充実させています。これからは、子育て世代のかたがたが、安心して子育てができる環境を整備してまいります。



子どもにかかわる予算の伸び(一般会計)

平成20年度までの市の主な子育て支援策を紹介します。

①児童福祉費

公立・私立保育園や公立・私立児童保育室の運営経費、児童手当や児童扶養手当といった各種手当、子ども医療対策費やひとり親家庭等医療費などにかかわる費用をいいます。
【児童措置費】
児童手当や所得に応じて頂いた保育料に不足分を加え、市から民間保育園へ支払う経費などをいいます(図1)。

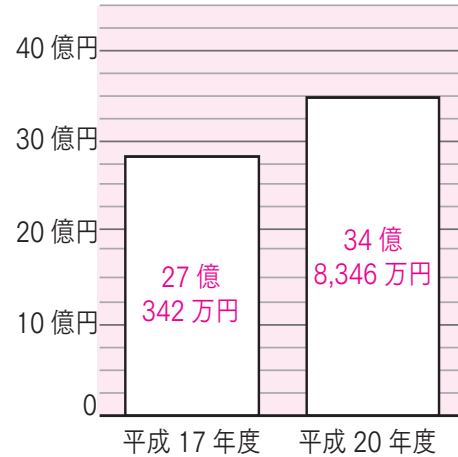


図1 児童措置費決算額

【子ども医療対策費】
平成18年度から、医療費の助成を小学校6年生まで拡大しました(図2)。また、平成20年1月から市内の場合、窓口での申請手続きが、氏名・住所・電話番号のみの記入となり、簡素化が図られています。

②小学校費・中学校費・幼稚園費

園児・児童・生徒の安全を確保するため、公立幼稚園・学校施設の維持管理経費や大規模改修の建設経費を拡

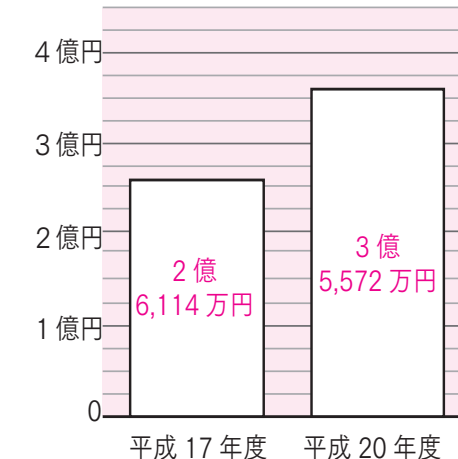


図2 子ども医療対策費決算額

大し、その他、授業で使用する教材整備費や図書室蔵書経費、遊具の充実などを実施しました。

③小規模修繕

市内景気浮揚策として、平成18年度から毎年12月議会において、市内公共施設の小規模修繕予算を計上しました(図3)。

特に、平成20年度は、子どもたちが使う施設の安全・機能向上を図るため、当初予算(4月からの年間予算)を補

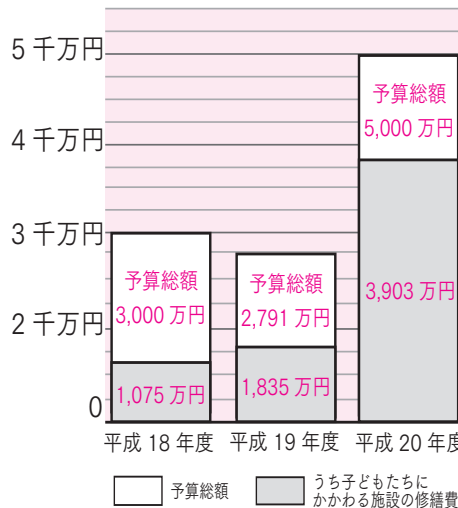


図3 小規模修繕の予算配分



遊具で遊ぶ子どもたち

正予算でさらに増額し、改修したところ。平成21年11月臨時議会でも、小規模修繕予算を計上し、総額約5千2百万円の中から、利便性向上のため、約3千9百万円を子どもたちの使う施設の改修に充てました。